

【写真】4月6日に、市内小中学校では入学式が執り行われました。新しい環境に期待と不安で一杯な様子が伺えます。たくさん学び、たくさん思い出を作って、有意義な学校生活を過ごしてくださいね！

令和3年（2021年）6月18日発行
編集・発行 岩見沢市教育委員会
〒068-0024 岩見沢市4条西3丁目1番地
であえーる岩見沢4階

第 51 号

教育広報

いわみざわ市の教育

— 特集 —

パン給食が再開しました！

●第2期岩見沢市子どもの読書推進計画

「いわみざわの子ども読書プラン」を策定しました！

●子どもたちの笑顔を紹介します！子どもの体験活動事業

●学校運営を支える仕事 Vol.1「事務補」「用務員」

●教育長室から



岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報、市教委ホームページの更新情報などを発信していますので、ぜひ「いいね！」してください。
<http://www.facebook.com/edu.iwamizawa>





パン給食が再開しました！



学校給食用パンの再開について

学校給食用パンは、従前業者の業務撤退に伴い令和2年4月から1年間提供を停止していましたが、様々な協議を進めた結果、今年の4月から再開することができました。

新たに発足した岩見沢パン協議会において、パン用小麦として評価が高い岩見沢産の「キタノカオリ」を100%使用した学校給食用パンの製造と、学級ごとの仕分作業を分業で行い、年間約40回（週1回程度）学校へ届けています。

岩見沢市ではこれからも、地産地消を推進し地域に密着した美味しいパン給食を提供していきます。



学校給食用パンの種類と重さ

学校給食用パンは「コッペパン」「バーガーパン」「黒糖パン」「ソフトフランス」の4種類があり、献立の栄養価や主菜・副菜との組み合わせをもとに、最適なパンを提供します。また、食物アレルギーを考慮し、全て卵抜きでパンを製造しています。

パンの重さ（小麦粉の量）は児童生徒の発育に合わせて、表のように4段階に設定しています。小麦粉以外にも砂糖等を加えるため、実際のパンはこれよりも少し重くなります。

学年	重さ
小学校低学年	50 g
小学校中学年	60 g
小学校高学年	70 g
中学校	80 g

【お問合せ先】 学校給食課 電話 0126-22-4008



第2期岩見沢市子どもの読書活動推進計画

「いわみざわの子ども読書プラン」

を策定しました！

子どもにとって読書は、豊かな人生を生きる上で欠くことのできない基本的な活動です。すべての子どもが読書を通じて想像を膨らませ、心躍らせる時間を持てるよう、図書館を中心に家庭・地域・学校が連携・協力し、子どもの読書活動を推進します。



子どもの成長段階に応じた読書に親しむ機会の提供

子どもが本に出会い、本の魅力に気づき、その感動を伝える機会を提供します。

- ブックスタートの実施
- 絵本の読み聞かせ
- 図書館見学の受入れ
- 絵本・児童書コーナーの充実 など



▲ 絵本の読み聞かせの様子



▲ 一日司書体験の様子



家庭・地域・学校における読書活動の推進

子どもが生活するすべての場所で、本を読む喜びや楽しさを知ることができる取組みを進めるとともに、子どもの読書活動を支えるための人材を育成し、その活動を応援します。

- 児童館への団体貸出の充実
- 家読（うちどく）の推進
- 各種ボランティアの育成
- 一日司書体験の実施 など



読書活動の充実と環境の整備

来館経験のない親子や多くの子どもが、気軽に足を運びたいくなるような図書館づくりに取り組み、魅力あふれる読書環境の整備や、ホームページなどによる情報発信に努めます。

- 図書館フェスティバルの開催
- 図書資料の充実
- レファレンスサービスの充実
- SNS 等での情報発信 など



▲ おすすめ本の展示



▲ ボランティア研修会の様子



学校と連携した読書活動の推進

子どもの自主的・意欲的な学習活動や読書活動を応援するため、学校と連携した魅力ある読書活動の推進に努めます。

- 職場体験・インターンシップの受入
- 学校図書館担当者会議の開催
- 学校図書館協働利用事業の推進 など

【お問合せ先】図書館図書係 電話 0126-22-4236

子どもたちの笑顔を紹介します！

子どもの体験活動事業

やってみたらできちゃった

幼児は、遊びを通して成長します。それは身体を動かすことから始まり、鑑賞や模倣などを積み重ねていきます。また、大人にはその子なりの得手を生かして「やってみたらできちゃった」の成功場面の体験から、楽しさにつなげ、さらに難しいことにも挑戦してみたい、という探求心をくすぐるような関わりが大切だと言われています（令和3年2月5日開催の療育講演会から）。

学齢期の子どもも、さまざまな体験機会に触れ、興味や関心を広げていくことで、人との信頼関係を築くことができます。そうすることで将来、壁にぶつかっても乗り越えられる力や再起する力を身に付け、孤立や孤独を防ぐことにつながります。

子どもの体験活動事業

教育委員会では、お子さんが家庭環境の違いにより、さまざまな体験をする機会が制約されないよう、令和2年度から「子どもの体験活動事業補助金」を創設しました。

この取り組みは、地域の団体等の活動を通して、参加費などの負担なく、子どもたちが自分の意志で参加できる機会や場所を設け、家庭によって子どもの体験機会や教育機会に差が生まれないようにするためのものです。

子どもがどのような環境にあっても、学校や地域で自分を理解してくれる人に巡り合うことができれば、大人を信頼し、将来に希望を持つことができます。そうした経験とつながりから、子どもたちが自分の将来について考え、希望を実現する力を身に付けることを目指しています。

令和2年度の活動の様子

昨年度は、子どもたちに喜んでもらえるよう工夫した活動として、こども食堂やプレーパークなど公募で選ばれた5つの団体に補助金を交付しました。

こども食堂は持ち帰り方式に変更、プレーパークなどの外遊びも人が集まりすぎないことや疲れすぎないことなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し活動することができました。それら団体の声をご紹介します。

◎こども食堂

事業名（場所）	活動の様子	写真
こども食堂げんき（各児童館）	毎月第3土曜日に児童館の子どもにお弁当を届け、ゲームであそぶ時間を設けました。 コロナ禍と大雪のため、期間は8月から10月、3月の計4か月間で、延べ278食を提供しました。 あそびの時間に人気があり、お弁当を楽しみにしてくれるお子さんもいました。	
もぐもぐキッチン（4条西14）	毎回メニューを工夫した持ち帰り方式とし、同時に輪投げやダーツなどゲームの時間を設けました。 9月から3月まで延べ81食を提供。初めての開設でPRに苦労しましたが、参加した子どもたちの挨拶や楽しそうな姿に元気をもらえました。	

◎プレーパーク・体験活動

事業名（場所）	活動の様子	写真
なんかする会？（志文小学校区）	ママ友を中心に、地域の方々と大学生のサポートを受けて、公園などを会場に、水遊びや雪遊びなど季節に合わせた外遊びを体験しました。 屋外で思いきり身体を動かすと、心も豊かになり、他者との関わりが持て、地域のコミュニケーションにもつながることを期待しています。	
プレーパーク（東山公園）	東山公園でプレーパークを開催し、子どもたちが自然の中で季節の移り変わりを感じながら遊びました。 また、大人や大学生と一緒に屋外での工作や散歩など、思い思いに過ごす場を提供することができました。	
いわみざわこどもキャンパス（公園・学校）	子どもたちと大学生があそびを通して交流できる場を設けました。 子どもたちが初めて体験することやスケールが大きい雪あそびなどを9月から3月にかけて4回実施しました。 子どもたちが楽しむばかりでなく、大学生もたくさんの学びをもらうことができる貴重な機会でした。	

令和3年度の対象事業

令和3年度の交付対象事業は、広報いわみざわ5月号で公募しました。申請書類をもとに、子ども・子育て会議の意見を参考に選考した結果、こども食堂やレクリエーション事業など、次の7つの団体の取り組みに決まりました。コロナ禍で安全対策が必要ですが、それぞれの活動が市内に広がることを期待しています。各事業の実施日については、学校等でのチラシ配布のほか、広報いわみざわでもお知らせします。

◎令和3年度対象事業

事業名（場所）	団体名	開催場所
こども食堂げんき	国際ソロプチミスト岩見沢	ぷらっとパーク及びJA鉄北
こども食堂もぐもぐキッチン	こども食堂「おひさまキッチン」	4条西14丁目
いわみざわこどもキャンパス（こども食堂）	学生団体ヒトツナギ iwamizawa	いわなび ほか
なんかする会？（外遊び）	なんかする会？	志文小学校区
レクリエーション事業	マロンドリーム	栗沢町地域
子どものためのヨガ教室	子どものためのヨガクラブ	市内児童館 ほか
ベジトレ、食 de アート	岩見沢食でつながろうプロジェクト	市内集会交流施設

【お問合せ先】子ども課子育て支援係 電話 0126-35-5133

学校運営を 支える仕事

Vol.1 「事務補」「用務員」

市内小中学校では、子どもたちが安心して学校生活を過ごせるよう、「事務補」、「用務員」、「学習指導員」、「スクールサポートスタッフ」、「学習支援員」が活躍しています。学校運営を支える5つの業務について、順次紹介していきます。

初回は「事務補」と「用務員」を紹介します！

「事務補」

教職員がより教育活動に専念して取り組むことができるように、教職員の業務量軽減を目的に配置しています。

主な業務内容は、配布物の印刷業務や、学校内の清掃・整理整頓などを行います。特に印刷業務は、学級人数ごとにプリントを仕分けるなど、教職員の作業時間を軽減しています。

また、新型コロナウイルス感染症対策のため、アルコール消毒作業にも従事しています。



「用務員」

学校敷地内の維持管理を目的に配置しています。

主な業務内容は、草刈り作業や、学校設備の点検を行います。また、冬は除雪作業も重要な業務になります。子どもたちが安心して学校に通うことができるよう環境整備を行っています。

「事務補」同様に、新型コロナウイルス感染症対策のために、アルコール消毒作業にも従事しています。



【お問合せ先】学校教育課総務係 電話 0126-35-5121



『レジリエンスな子ども』

教育長室から

教育長 三角 光二

生後4ヶ月ほどの赤ちゃんが、懸命に寝返りを打とうとしています。体を大きくのけぞらせて体勢を変えようとしますが、なかなかうまくできません。あとほんの少し、もうひと踏ん張りというところで、元に戻ってしまいます。何度も繰り返す様子に息を詰めるようにして見つめる親の表情や姿から、我が子の成長を信じて待つ愛情を感じます。

子どもは、誕生してから日々成長しています。自力で何かを成し遂げたときの子どもの満ち足りた表情が、周りの大人を幸せな気分してくれます。子どもは達成感や満足感を味わうことで自己肯定感を抱き、それが自信となります。子どもの頑張りを認めつつ、ときには親がちょっとひと押しし、そっと支える場面もあるでしょう。子どもの幸せな成長を見守る親の愛情が思いやりのある子どもを育みます。子どもが成長していく過程には、うまくいくことばかりではありません。思い通りに行かないときや失敗してつまづいてしまうこともあります。また、楽

しいことや嬉しいことばかりでなく、悲しいこと泣きたくることや怒りたくることもあるでしょう。

そんなときに、しなやかに対応できる心の強さを持っている子が、『レジリエンスな子ども』と呼ばれます。レジリエンスとは柔軟性や弾力性があること、つまり傷つきにくく、対応力や回復力のある子どもを指します。しなやかな心の強さとは、あきらめることなく何度でもチャレンジする、へこたれることなく別の選択肢を見つける、あるいは我慢するなど、自ら乗り越えようとする力を発揮できる子どもです。子どもは子ども社会の中で、対人関係を学び、社会性を身につけます。自己主張しつつ他者と折り合い、我慢や思いやりを身につけ、失敗や間違ったときに自分の非を認めやり直す、そんな経験を積み重ねながら子どもは育ちます。

子どもが社会人となったときに、困難や難題にぶつかったとしても、心折れることなく乗り越え、知恵を絞って対処し、自らの自己実現に向けて前向きに取り組む大人として成長してほしいものです。そのためには、仲間づくりや集団での人とのかかわりを私たち大人が上手に支え、人との交流が制限されがちなコロナ禍だからこそ、これまで以上に子どもの人間性を豊かに育てていく必要があると考えます。